



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



6月の歳時記

副院長 おおた みつりのり 太田 三徳

6月1日は衣替えで、学校も会社も夏服になりますね。この季節は梅雨で湿気も高くなり、気温も次第に上がって汗ばむことが多くなります。衣替えは冬服から夏服に着替える平安時代の宮中行事「更衣」でしたが、後に天皇の着替えの役目をする女官を「更衣」と呼んだために、庶民の間では衣替えと言うようになりました。現在の6月1日と10月1日の衣替えは明治6年に定められたものですが、なんと江戸時代には武家では年4回の衣替えがあり、その内3回は湿度の高い夏の期間の4月から9月でした。

この蒸し暑い夏のために衣替えだけでなく、昔から家の造りも風が通りやすく湿気がこもらない工夫をしていました(冬は風通しが良すぎて寒い造作ですが)。特に畳は稲わらを固めたわら床を「い草」の畳表で包みますが、わらと「い草」は共に湿気をとでもよく吸収し、「い草」の芳香(アロマ)も夏を爽やかにしてくれました。

高い湿度と気温は、食中毒と熱中症の原因でもあります。梅雨が終わると本格的な夏です。食事前の手洗いと生食を避け、水分を切らさず夏に備えてください。



気胸について

呼吸器外科部長

かどた よしひさ 門田 嘉久

気胸とは肺から空気もれて、胸腔(胸郭と肺との間)にたまっている状態をいいます。胸郭は肋骨と筋肉で構成されており外側に膨らむことはできないため、肺は空気に押されて胸郭のなかで萎んでしまいます。

原発性自然気胸と続発性自然気胸～若者の気胸と中高年の気胸

気胸(自然気胸)は何らかの原因で臓側胸膜(肺の表面を覆っている膜)に穴が開くことで発症すると考えられています。その成り立ちによって「原発性自然気胸」と「続発性自然気胸」に分けられています。肺そのものには原因がなく胸膜の一部がブラと呼ばれる袋になり穴が開くことで生じるのが原発性自然気胸であり、20歳台を中心に多く発生します(いわゆる若者の気胸)。

一方で、肺気腫や間質性肺炎、肺がん、肺感染症のように、何か肺の疾患があり、これが原因となって起こるものを続発性自然気胸または続発性気胸と呼んでいます。肺の病気は中高年に多く、また呼吸機能の低下を伴っている方も多いため、原発性自然気胸(若者に多い気胸)に比べて症状や病状が複雑なことが多いのが、続発性自然気胸の特徴といえます(いわゆる中高年の気胸)。



気胸の治療

ごく軽症の場合を除いて、入院し胸腔ドレナージ（胸腔に管を留置してもらった空気を外に排出する方法）が必要になります。肺が膨らみ空気もれが無くなったら、管を抜去することができます。気胸になってもその後一生気胸を起こさない方も多くいますが、気胸の問題点はある日突然再発を起こすことがあることです。

気胸の治療法として手術があります。手術をお勧めするのは、主に以下のような状況です。

①胸腔ドレナージを行って空気の漏れが止まらない場合②気胸が再発した場合③左右両側の気胸の場合があります。これらの患者さんに対しては手術を積極的に行います。また初発の気胸でも虚脱の程度が高い場合（再発時に危険を伴う可能性があるため）は手術を検討する場合があります。

より病態の複雑な続発性気胸の患者様が多いのが当院の特徴ですが、呼吸器外科では積極的に手術治療に取り組んでいます。

<看護部 誠意と温かみのある優しい看護を目指して⑥>

8A 病棟



8A 病棟は、病棟（肺腫瘍内科、婦人科）と肺腫瘍内科外来、外来化学療法室が連携し、笑顔とあたたかい看護を心がけ、患者様の入院生活や通院をサポートしています。

当センターには、化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん専門看護師というスペシャリストがいます。彼女たちを中心に化学療法看護の標準化を図り、また、



病状や治療に伴うつらい症状に対して早期に対応しています。そして、病棟では、受け持ち看護師を中心に患者様と治療や症状緩和の目標を共有し、不安な思いが和らぐような関わりをもち、安心して治療を受けていただけるような看護を行っています。

また、入院生活に癒しを感じられるように、病棟談話室には季節ごとの飾りをしています。5月は手作りのこいのぼりを飾り、昨年七夕には絵に描いた笹に願いをこめた短冊を飾りました。短冊には「早く良くなって家族と旅行に行けますように」と書かれたものもあり、私たちは患者様と寄り添い、その目標に向かって関わってきました。

通院で化学療法（点滴治療）を受けられる場合もあります。初めて外来で化学治療を受けられる方には、退院前に外来化学療法室の見学や説明を行い、治療後は体調について電話でお話を聞くなどサポートしています。

患者様の検査—治療—外来通院の経過の中で、いつでも、どこでも安心していただけるように、今後も、より専門性の高い、患者様とご家族様に寄り添った看護を目指していきたいと思っております。



6月の教室案内

*カンガルー教室	● 6月5・12・19・26日	午後1時～	第1会議室
*禁煙教室	● 6月6日	午後3時30分～	医療情報コーナー
*喘息教室	● 6月20日	午後2時～	第2会議室